

世田谷区立世田谷中学校
校長 前田 浩 様

世田谷区立世田谷中学校
学校関係者評価委員会
委員長 後藤 彰夫

令和6年度 学校関係者評価報告書

本年度の学校関係者評価について、以下のようにまとめたので報告します。

1 アンケート実施状況(期間: R6.11/1~11/15)

対象者	回答数	配布数	R6回収率(%)	R5回収率(%)
生徒	444	548	81.0	80.7
保護者	249	548	45.4	57.3
地域	22	35	62.9	70.0

2 評価対象ごとの評価結果の分析

肯定的な評価(Aとても思う、B思う)の割合が8割程度を目標達成の判断目安とし、協議した。肯定的な回答がやや低い項目(8割以下)であっても、実態と学校の取り組み状況を総合的に判断した。

[1] 生徒

学習指導、生活指導、学校行事については、ほぼ8割以上の肯定的な評価であり、特段の課題はないと思われる。

中でも、特に肯定的な評価の高い項目は、

「授業では、考えたことを話し合ったり、発表し合ったりする機会がある」 (A+B 94.1%)

「学校行事は、楽しい」 (A+B 93.7%)

「先生は、課題について、自分で考えたり、友達と考えたりする時間を授業の中で取っている」 (A+B 93.4%)

「学校行事は、達成感がある」 (A+B 91.0%)

「学校生活は、楽しい」 (A+B 90.1%)

であり、いずれも昨年度を上回り90%を越える高評価となった。充実した授業が実施され、生徒が学校行事に積極的に取り組んでいる様子がうかがえる。

一方で、否定的な評価(Cあまり思わない、D思わない)が高い項目や回答できない(E分からぬ)との評価が目につくものとして、

「学び舎の小学校に行ったり、小学生が来たりする機会がある」 (C+D 54.3%、E 12.6%)

「私は、学校で各種検定を受検したり、講習会、補習教室に参加したりして、

授業以外にも自ら進んで学習に取り組もうとしている」 (C+D 36.5%、E 5.6%)

で、昨年度より多少の改善はみられるものの評価は低い。また、

「私は、自ら進んでボランティア活動に関わろうと心がけている」 (C+D 33.1%、E 5.2%)

「私は、計画的に、粘り強く学習できるようになってきた」 (C+D 30.2%、E 4.7%)

であり、生徒が主体的に活動・学習していこうという姿勢が強いとはいえない。一方、

「先生たちは、生徒が相談しやすい」 (A+B 68.3% 前年度比+6.4% R3年度比-8.3%)

「私は、先生が指導した学校での過ごし方やルールについて理解できる」 (A+B 79.5% 前年度比+2.1% R3年度比-6.5%)

経年で評価の大きく下がっていた項目で改善傾向がみられる。

また、キャリア教育に関しては、昨年度は6%程度のポイント下降であったが、今年度は、

「私は、キャリア・パスポートに書いた目標について、考えて行動している」 (A+B 67.8% 前年度比-1.1%)

「自分の進路や将来の仕事について、考える授業がある」 (A+B 83.6% 前年度比+6.0%)

「学校は、進路や将来の仕事に関する情報を提供している」 (A+B 77.0% 前年度比+10.6%)

と、学校からの情報提供や授業の充実の工夫により改善傾向がみられる。

[2] 保護者

548通のアンケートを配布し、全学年で249通の回答があった。回収率は45.4%となり、50%に満たず、回収率は低いと言わざるを得ない。また、学年により回収率の大きな差があることも気になる点である。回収率と評価とは無関係とは言いがたいと判断し、前々年度、前年度同様、今年度と昨年度の評価の変動(+、-)の比較は積極的には行わないこととした。

肯定的な評価（A とても思う、B 思う）の割合が高い項目として、	
「学校行事は、子どもにとって楽しい」	(A+B 90.4%)
「学校行事は、子どもにとって達成感がある」	(A+B 89.2%)
「本校は、避難訓練やセーフティ教室などで、子どもの安全に関する指導をしている」	(A+B 80.4%)
昨年度同様に評価が高く、また、	
「本校の学校生活は、子どもにとって楽しい」	(A+B 83.5%)
「本校は、学校公開や保護者会などで、生徒の様子が分かる」	(A+B 80.8%)
が、80%を越える高い評価を得ている。	
一方で、否定的な評価（Cあまり思わない、D思わない）が高い項目や回答できない（E分からない）との評価が目につくものとして、	
「私は、学校行事、PTA や地域主催の行事などにすすんで協力している」	(C+D 53.0%、E 3.2%)
「私は、学校公開にすすんで参加している」	(C+D 48.6%、E 1.6%)
で、保護者の消極的な姿勢も見て取れる。また、	
「本校は、子どもや保護者が相談しやすい」	(C+D 30.5%、E 11.6%)
であり、生徒同様に高い評価とは言いがたい。	
昨年度からの新規の独自項目については、経年で比較すると、	
「本校では働き方改革が進んでいると思う」	(A+B 41.7% 前年度比 +5.8%)
であり、昨年度よりは上昇しているものの依然高い評価であるとはいえない。	

[3] 地域

肯定的な評価（A とても思う、B 思う）が9割を超えた項目が、16項目中1項目だけあった（昨年度は5項目）。	
「学校からのお知らせ（学校だより）などにより、学校の様子が分かる」	(A+B 90.9%)
「通学している子どもたちは、交通ルールなどを守っている」	(A+B 86.4%)
「学校行事の内容は充実している」	(A+B 86.3%)
「学校は、安心・安全な学校づくりを進めている」	(A+B 86.3%)
「学校の重点目標が明確である」	(A+B 81.8%)

一方で、

「学校運営員会は活動を周知し、役割を果たしている」	(E 分からない 31.8%)
など、E分からないが20%を越える項目が16項目中7項目ある。また、『コロナ前に比べ地域との関わり合いが減っているように感じています』との声が自由記述として寄せられている。学校として、学校の現在の方針・活動をより周知させることを望む。	

3 学校への提言

(1) 学校スローガン実現に向けて

生徒・保護者・地域の方からの高水準の評価を維持していることからも、世田谷中学校では、校長のリーダーシップのもと、学校スローガン『未来につながる実力の世田谷中～“世田谷中プライド”を胸に～』の実現に向けて、日々日常の活動・支援が行われていることがうかがえる。

学校は、学力の保障と健全育成と共に、未来を生きる生徒が夢や希望、目標をもつことを大切にし、その実現のための道のりを考えるキャリア教育の推進と更なる定着を強く望む。

一方で、学校には家庭・地域との連携・協力・相互理解をさらに深め、生徒たちの成長を指導・支援する取り組みを今まで以上に求める。

(2) 教職員の働き方改革の更なる推進

独自項目として昨年度新設した「本校の働き方改革」について、「進んでいる」と答えた保護者は前年度比+5.8%だが A+B41.7%と高い評価とは言えない。このことは「本校は、子どもや保護者が相談しやすい」という項目に対し、保護者の30.5%が否定的な評価(C+D)をしていることと無関係とは言えないだろう。教職員がゆとりを持って業務にあたり、ワークライフバランスを実現させることができることが、教育活動の充実、安心安全な学校環境の構築、そして生徒・保護者・地域からの信頼につながると考える。

4 総合所見

自己評価報告書及び学校関係者評価等によると学校は様々な活動に取り組み、一定の成果を挙げている。地域運営学校としての機能を最大限に生かし、学校としての考え方や取り組み方法について最善の方策を生み出し、実践を願いたい。この学校に関わる生徒、保護者、地域及び教職員等が、共に自信と誇りのもてる世田谷中学校となるよう、前田浩校長のもと教職員一丸となってさらに取り組んでいただくことを強く望む。

令和6年度 世田谷区立世田谷中学校 学校関係者評価委員会

委員長：後藤彰夫	委 員：木村美紀	委 員：室田久子
委 員：由良孝江	委 員：渡邊 鑑	事務局：新妻弘樹

